

vol.
047

障碍社通信

2025年
07月号

7月になりました。7月は「文月」（ふみづき）とも呼ばれます。七夕や海開き・山開きなど、イベントが多く催され気分も開放的になりやすい季節です。お出かけの頻度も高くなると思いますが、最近では暑さが激しいのできちんとした対策が必要ですね。みなさんは誰と何処へ出かけますか♪

神奈川県中小企業家同友会 経営指針発表会に参加しました

安藤社長が今年の4月より参加されている「神奈川県中小企業家同友会の『経営指針作成部会』発表会が、6月19日(木)横浜市中区のロイヤルホール横浜で開催されました。

この部会は、約3カ月間にわたり、各社の社長が経営理念・10年ビジョン・経営方針・経営計画などを学びながら経営指針を作り上げていく、まさに“経営の道場”のような勉強会です。今回の発表会ではこの部会に参加された各社の社長（今回は12名）が大勢の聴講者の前で「自社の経営指針について」スピーチを行いました。



当日は中小企業家同友会関係者や発表者の社員など132名が参加されており、当社からも約20名のスタッフに参加しました。（安藤社長は、明らかに緊張気味で・・・苦笑）

安藤社長の発表は、当社の今後を指し示す重要な内容であり、当日参加した当社スタッフも、発表を通じて、改めて会社の未来を思い描く機会となったのではないかと思います。当社では、今回の経営指針作成部会での学びを踏まえ、社是や経営理念などの一部見直しを進めてまいります。決定次第改めてご報告いたしますので、ご期待ください。

車椅子利用者の「こもり熱」対策

皆さんは「こもり熱」を知っていますか？ こもり熱とは、体温調節が上手くできず、体内に熱がこもってしまう状態を指します。

微熱（37～38℃）が続く場合や、筋肉痛、だるさ、関節の痛みなどの症状が現れることがあります。特に、車椅子利用者は、子供と同じく地面からの照り返しを受けやすいことや、車椅子の背当てや座面と身体の密着により熱がこもりやすいこと、体温調節機能が低下している場合があること…などの理由で、こもり熱になりやすい傾向があります。



車椅子利用者のこもり熱対策には、

- ・通気性の良い服装をする
- ・冷却グッズを活用する
- ・こまめに水分補給をする
- ・こまめに休憩を挟む
- ・涼しい環境を整える
- ・食事に気を配る（冷たい物や身体を冷やす物など）などが効果的です。

こもり熱は、一度熱がこもってしまうと、こもった熱を冷ますのに結構な時間がかかり大変です。また、こもり熱は熱中症の初期症状である場合もあります。少しでも体調に異変を感じたら、すぐにクーリングなどの処置を行いつつ医療機関を受診するようにしましょう。

こもり熱は、適切な対策をすることで予防や改善が可能です。日頃から、体温調節や水分補給に気を配り、こもり熱にならないように注意しましょう。



ゲリラ豪雨時、雷への対策

近年、地球温暖化や都市化の影響でゲリラ雷雨の発生頻度が増加しているとされています。ゲリラ雷雨とは、主に夏季に局地的かつ急激に発生する激しい雷雨のことです。予測が困難なことから「ゲリラ」と呼ばれ、都市部や山間部など多様な地域で短時間に激しい雨や雷が観測されます。ゲリラ雷雨で発生する雷には、いくつかの特徴があります。まず、雷の発生が非常に急で、天候の変化が短時間で進行するため、避難や対応が難しいです。また、ゲリラ雷雨に伴う雷は、発生する範囲が狭いにもかかわらず、落雷のエネルギーが非常に大きいので、落雷による被害が局地的に集中しやすいのも特徴です。



ゲリラ雷雨に伴う雷の被害を防ぐためには、日常的な備えと迅速な避難行動が重要です。天気予報や気象庁の発表をこまめにチェックし、「雷注意報」や「大雨警報」などの情報に注意を払いましょう。屋外で空が急に暗くなったり、遠くで雷鳴が聞こえたり、急に冷たい風が吹いたりした場合は、すぐに屋内や車内など安全な場所に避難することが大切です。屋外で避難する前に雷が近づいていると感じたときは、傘を差さず、木の下や高い構造物の近く、開けた場所を避けるようにしましょう。車椅子では行動に時間がかかるので早めの行動を心掛けましょう。



ゲリラ雷雨による雷は、予測しにくく、時に甚大な被害をもたらしますが、正しい知識と備え、そして迅速な行動によってリスクを大きく減らすことができます。私たち一人ひとりが雷の危険性に対する意識を高め、適切な対策をとることが、命を守るために不可欠です。

みんなで楽しめる社会に

今、私たちの身の回りでは、バリアフリー化が着実に広がっています。段差の解消や多目的トイレの設置、音声案内や点字表示など、以前は「特別な配慮」とされていたことが、あたりまえの景色になりつつあります。



これは、車いすを利用している方はもちろん、ご高齢の方、ベビーカーを押す方、一時的にけがをしている方など、さまざまな立場の人たちにとって“暮らしやすい社会”をつくる動きでもあります。

こうした中で、スポーツの分野でもバリアフリーが進んでいます。例えば、近畿日本ツーリストは、今年開催される東京2025世界陸上で「車いす対応の公式観戦プラン」というものを発売しています。

車いす席と介助者席、近隣駐車場が確保でき、移動やスペースの心配をせずに安心して観戦を楽しめます。

バリアフリーの取り組みが進むことで、誰もが同じように楽しめる世界が少しずつ広がっていますね。



IRS・VIV・PAS懇親会

今回は、相談支援・ヘルパー派遣・福祉用具対応の3つの支援分野で活動するスタッフが集まり、懇親会を開催しました。

日々それぞれの現場で利用者さんと向き合い、異なる立場から支援に取り組むメンバー同士が一堂に会したことで、「暮らし全体を支えるチーム」としての一体感が高まり、支援の入り口となる相談から、日常生活をサポートする訪問介護、そして必要な補助具の提案と修理まで、それぞれの役割が重なり合うことで、より包括的なサービスが提供できるという実感が生まれました。懇親会では、現場のリアルな声や経験をシェアしながら、「こんな連携ができればいいね!」という前向きな話題も次々と飛び交い、終始なごやかな雰囲気包まれていました。

こうした交流の場を通じて、これからも事業所間のつながりを深めながら、利用者さん一人ひとりの暮らしに寄り添う支援体制を築いていきます。



当事者スタッフのリアルな生活をSNSで紹介しております。QRコードからご覧ください!



facebook



Instagram

障害社通信について、みなさまのご意見をお聞かせください!!



株式会社 障害社

〒193-0013

東京都町田市原町田4-18-6 マーブルパレス101

TEL: 042-850-9141 / FAX: 042-850-9142

MAIL: info@shogaisha.co.jp

障害社HPは
こちらの
QRコードから

